

第6回「道徳のまち笠松」のつどい

講演 『心ゆたかに生きる』

南蔵院 住職 林 覚乗氏

道徳のまち笠松のつどいが、3月1日に中央公民館で開催されました。会場となったホール入り口には「あいさつのまち」「きれいなまち」「ささえ合うまち」の各コーナーを設置し、これまで道徳の町づくりで取り組まれてきた「あいさつ運動」や「トンボ池周辺の清掃」などを紹介。また、情報紙「ふるさと笠松のちょっといい話」を展示したり、缶バッジを配布したりして取り組みの様子がわかりやすく紹介されていました。



展示コーナーで取り組みの様子を紹介



今年度の活動を映像を使ってわかりやすく紹介

つどい第1部では、今年度取り組んだ次の3つの活動が映像によって紹介されました。

1. “トンボ池を守る会”と“道徳のまち笠松推進会議”が呼びかけ、昨年6月に行われたトンボ池周辺の清掃活動
2. 鮎鯨街道ウオークにおける「おもてなし」活動
3. 円城寺付近の堤防や道路のゴミ一掃活動

また、熱い心で道徳的な実践を行っている町民の方の紹介が映像を通して行われ、来場者は熱心に聴いていました。

つどい第2部は、南蔵院の林覚乗住職による「心ゆたかに生きる」と題し、講師の「出会う人に明るさを与えたい」という信条そのものの笑いと涙にあふれたすばらしい講演でした。

講演では、日常の出来事の中に大きな価値を見つけることで、心のゆたかさが感じられる事例が数多く取り上げられました。例えば、親は子どもに「えらい人間になれ」と言うより、「立派な人間になりなさい」と言う方がよい。なぜなら、「えらい」は誰かと比べなければならないが、「立派」は比べる必要はない。誰でもが「立派」になれるという話は、なるほどその通りだと感じさせられました。

今月から、「道徳のまち笠松のちょっといい話」をシリーズにして、毎月皆さんにお届けします。詳しくは、13ページをご覧ください。



笑いと涙あふれた講演でした